

クイーンズランド大洪水と東日本大震災の復興過程の比較分析

東北工業大学 学生員 ○大上 利生
東北工業大学 フェロー会員 稲村 肇

1. はじめに

オーストラリア、クイーンズランド州は東日本大震災とほぼ同時期に、かつてない大規模の洪水・台風災害に襲われた。日本は復興庁が出来たのは大震災から1年後であるのに対し、クイーンズランド州は災害直後に復興庁は発足している。

本研究ではこの立ち上がりから違う両者の復興過程について文献研究、比較分析をする。

2. クイーンズランドの復興について

過去100年で最大の台風カテゴリー5のサイクロン:ヤシが上陸したのは2月3日である。クイーンズランド復興庁は約20日後の2月21日に設置された。この復興庁の取組みは、①人間と社会部門(コミュニティー省担当)、②経済部門(雇用・経済発展省担当)、③環境部門(環境省担当)、④建築物修復部門(公共事業省担当)、⑤道路・交通・運輸分野(国土交通省担当)、⑥地域社会・通信分野(内閣府担当)の6つの分野に分けられている。本研究では⑥を除いた5部門の考察を行う。

3. 比較分析

今回2011年3月から2012年3月までの1年間でクイーンズランドのマンスリーレポートを調査した。復興計画は前記の6分野の小委員会に分かれての行われているため、その進捗状況を比較している。この報告は各項目ごとに情報を上げた時期が若干異なることに注意されたい。

3.1 人間と社会部門

この分野は地域社会に対する援助、被災者の困難をカバーする援助、個人の所得補てん援助の3種類に分けられる。この分野の復興は被災直後からオーストラリア政府災害復興給付金の総支払金額は3月時点で7.25億豪ドル払われている。災害時所得補償補助金に関しても支払いは迅速に進み3月時点で0.6億ドルと総額の85%が支払われた。被災者援助金については金額が表示されず、要求件数となっているが90%程度が2011年3月時点

で処理されていることがわかる。

表-1 人間と社会部門 各月の予算

	オーストラリア 政府災害復興 給付金	災害時収入 回復補助金	被災者 援助金
	総支払金額 \$million	支払総額 \$million	援助金 要求数
2011.3	\$725	\$60	60,000
2011.4	\$745	\$62	65,000
2011.5	\$756	\$68	64,000
2011.7	\$768.6	\$69.5	65,500
2011.9	\$775.4	\$69.5	67,400

3.2 経済部門

この分野の第1次産業交付金は生産減少を金銭で補てんするものである。支払いは2012年3月までには800万ドル程度であり、その後も毎月同様の金額が支払われ、1年後の2012年3月までで1.2億ドルに達している。小中企業への交付金も生産減少に対する補てん金である。一次産業と比較して3月までに多くが支払われた。(1100万ドル程度)その後は減少しながらも1年程度継続して1年後までに6550万ドルが支払われた。

表-2 経済部門 各月の交付金

	第1次産業交付金		小中企業への交付金	
	第1次産業 の総支払額 \$million	総支払額 の月ごとの 支払額 \$million	小中企業 への交付 金(総額) \$million	交付金の月 ごとの支払 金額 \$million
2011.3	\$8.17	\$8.17	\$10.77	\$10.77
2011.6	\$31	\$22.83	\$31	\$20.23
2011.9	\$65.9	\$34.9	\$49.1	\$18.1
2011.12	\$97.6	\$31.7	\$59.9	\$10.8
2012.3	\$120.5	\$22.9	\$65.5	\$5.6

3.3 環境部門

この分野は洪水により被害を受けた公園の復旧ペースについて考察する。3月時点で開園していたのが175、閉鎖が104であった。6月にさらに

63 が開園しその後も復旧は順調で 1 年後の 2012 年 3 月時点で閉鎖している公園は 1 か所のみである。

表-3 環境部門 公園について

	影響を受けた国立公園			
	以前の報告書で開いていた公園の数	各月で公園の開いた数	閉じている公園の数	各月の公園が開いた数
2011年3月	175	-	104	-
2011年6月	65	-110	41	63
2011年9月	113	48	16	25
2011年12月	129	16	7	9
2012年3月	168	39	6	1

3.4 建築物復旧部門

建築物の復旧は全てが保険金で支払われている。右欄の数値が要求額であり 5 月までに大半が出そろっている。それに対し保険金の支払いについては最初の 3 月で 3 億 1000 万豪ドル支払われていて、1 年後に支払総額は 26.4 億ドルに達している。しかし保険請求は 37 億ドル程度で、まだ 10 億ドル程度の支払い残高が有ることが分かる。

表-4 建築物復旧部門 各月の予算

	保険支払に関して		保険要求総推計額	
	支払い推計額 \$million	各月の支払い推計額 \$million	総推計額 \$million	月ごとの増加金額 \$million
2011.3	\$310	&310	\$2,460	\$2,460
2011.5	\$820	\$510	\$3,500	\$1,040
2011.7	\$1,230	\$410	\$3,640	\$140
2011.9	\$1,860	&630	\$3,720	\$80
2012.3	\$2,640	\$780	\$3,710	(\$10)

3.5 道路と交通部門

この分野は道路の被害について比較する。3 月時点で修理が必要な道路は 5,369km であったが、6 月までには 2,355km の修復が終わった。その後も順調に修復が進み、7 月時点では 688km が未修復で残された。しかし、その後修復距離が伸びていないため、この 688km は放置されたと考えられる。州の鉄道は 4,748km 被害があったと報告されているが、3 月の報告までで 3,807km、80% が修復されている。その後修復が進み、9 月までに

4,596km が修復されたが、以降、数値に変動が無い。従って残りの 175km は修復しないで放置されたと思われる。

表-5 道路と交通部門 各月の修復距離

	州の道路(km)		鉄道(km)	
	これから修復される道路(km)	月ごとの修復距離(km)	以前の報告書より修復された鉄道(km)	月ごとの修復距離(km)
2011.3	5,369	0	3,807	3,807
2011.4	3,014	2,355	4,298	491
2011.6	2,236	778	4,421	123
2011.7	688	1548	4,421	0
2011.9	688	0	4,596	175
2011.10	688	0	4,596	0

4. 結論

日本では 2012 年 2 月によりやく復興庁ができたが、それでも未だ明確なビジョンが見えず提示もされていない。瓦礫の処分量も 2012 年 10 月で災害廃棄物は 30%。津波堆積物は 11% と未だ半分が届かずにいる段階だ。インフラについて、主なライフラインや公共サービスについては応急処置は終わっているが、被災地からは不満の声も少なくはなく、復興とまではいけないのが現状だ。それに対し、クイーンズランド大災害による被害は約 1.5 兆円とされ、東日本大震災の 16 兆~25 兆円の 1 割以下である。しかし、その復興速度には目を見張るものがある。本研究で明らかにできたのはその一部にすぎないが、その進行速度、復興の進め方、復興の組織などの大きな違いがあることがわかった。復興費用については金額表示されていない部分も多いため、確かなことはわからないが、建築部門の占める割合は大きく、その分野も 70% 以上が復旧されていることがわかった。

参考文献

Queensland Reconstruction Authority Monthly Report (2011 年 3 月~2012 年 3 月)
復興庁ホームページより 「復興の現状と取組み」